

中山由美さんが講演



雪中行進終了後、象潟公民館では、朝日新聞社記者の中山由美さんを講師に迎え、記念講演が行われました。中山さんは、平成15年の第45次南極地域観測隊と平成21年の第51次隊に同行。その時に取材した南極の自然や生き物、そして観測隊の仕事などを映像や写真などで紹介。南極観測の意義や地球環境を考える大切さなどについて語ってくれました。

『白瀬探検100年 南極から見えてきた地球と宇宙』

★**南極観測は、地球の健康診断**
南極は、地球環境の縮図。ここを知ることでいろいろなことが見えてくる。宇宙からの放射線、オゾンホールの大きさ、温室効果ガスの二酸化炭素濃度など、南極でのさまざまな観測は、地球の今の状態を知ることになる。地球環境の変化を知ることができるのです。

★**72万年前の地球**
昭和基地から千キロ離れた大陸の「ドームふじ基地」（標高3、810m）まで雪上車で1カ月行程。マイナス60度の世界。ここでの仕事は氷を掘ること。氷床掘削、深さ3、035m、72万年前の氷を掘り出す。昔の大气や物質を封じ込めている氷を分析すれば、過去の環境や気候変動を知ることができます。

★**46億年前の隕石探査**
セーブルンダーネ山地で40日間、隕石探査に同行。隕石の殆どが地球や火星などが誕生したころから宇宙を漂っていたもの。山地の地形上、隕石が集まる場所があった。46億年前の隕石を調べることで、地球の誕生や宇宙の誕生などが見えてきます。

★**子どもたちへ**
にかほに生まれた皆さんには、南極との縁を感じます。観測隊には、研究者だけでなく大工さん、電気技師、調理の人などいろいろな職業の人が必要。皆、自分の得意なことを一生懸命やって、夢を実現した。皆さんも、自分の好きなもの、夢を見つけて一生懸命頑張ってください。白瀬の精神が宿るこの地に生まれた皆さんには大いに可能性があります。

参加した小学生から
たくさん質問ができました

Q ペンギンに直に触れることができましたか？
A 残念ながら触ってはいけないうちに近づいています。近づいてもいけません。人からの菌感染などで、南極に生きる生物の環境を変えることがあってはいけません。

Q 南極に行つて、何種類の動物を見ましたか？
A 意外に少なく、コウテイペンギン、アデリーペンギン、ウエッデルアザラシ、ナンキョクオオトウゾクカモメ、ユキドリなどです。

Q 南極でも二酸化炭素が増えていると言っていましたか、どれ位増えていますか？
A 具体的な数字では答えられませんが、秋田や東京など日本が増えていく割合とほぼ同じ割合で増えています。

Q 5億年前の山は、どうして5億年前と分かるのですか？
A 難しい話になりますが、物質に含まれている放射性の物質があり、この物質が何年でどのくらい減るかということが分かっています。いろいろな種類があり、現地ですぐ分かるわけではなく、日本を持ち帰って、特別な機械で分析すると、この放射性の物質の含まれる量で判断できるわけです。



第44回 白瀬中尉をしのぶ集い

郷土の偉人を讃える雪中行進

「大和雪原」と命名



明治45年1月28日

日章旗を打ち立て
見渡す限り一帯を

南緯80度05分
西経156度37分に

1月28日、白瀬中尉をしのぶ集いが行われました。南極を思わせる厳しい風雪の中、保育園児や小中学生、市民など約500人が参加し、金浦海洋少年団が掲げる日章旗や市旗、南極探検隊を先頭に南極広場から白瀬中尉の生家の浄蓮寺まで、約2・5kmを雪中行進。墓前で全員が黙とうを捧げました。

明治45年の同日は、白瀬率いる日本南極探検隊が苦難の末、南極圏の南緯80度05分西経156度37分に到達し、見渡す限り一帯を「大和雪原」と命名した記念すべき日。雪中行進は大正から昭和初期まで行われ、昭和43年に復活、現在まで続いています。

